

PRAEVIDENTIA DAILY (7月28日)

昨日までの世界：ドルが小幅続伸

先週金曜は、相場を大きく動かすニュースは無く、むしろ米株価が下落し米長期債利回りも低下したことからドル安圧力がかかってもおかしくなかったが、欧州時間にドルがフロー主導とみられ対主要通貨で全般的に小幅上昇し、前日に続き続伸したのが特徴的だった。中では、**カナダドル**の下落が大きかったほか、ユーロ/ドルも**ドイツ Ifo 景況感指数**が108.0と予想以上に悪化したこともあって下落した。他方、ポンドは**英2QGDP**が前期比+0.8%、前年比+3.1%と予想通りだったことから対ドルでほぼ横ばい圏内に留まった。ドル/円も本邦コアCPIが前年比+3.3%と予想通りで発表後は動かず、欧州時間にドルの全般的な強含みに連れた後は米長期債利回りの低下に上値を抑えられ、101円台後半での横ばい推移だった。

なお、**米耐久財受注**は、総合、除く輸送用機器、コア資本財受注（設備投資の先行指標とされる）は各々+0.7%、+0.8%、+1.4%と予想を上回る伸びとなったが、コア資本財受注は前月分がマイナスへ下方修正されたほか、GDP算出に用いられるコア資本財出荷は-1.0%と予想に反してマイナスとなるなど、まちまちな結果でドル相場に強い方向性を与えるものではなかった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	-0.01	-0.00	+0.00	-0.05	-0.04	+0.01	-0.5	+1.1	+0.0	+1.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.3	-0.00	-0.01	-0.00	+0.01	-0.03	-0.04	-1.2	-0.5	+1.2	+0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.1	-0.02	-0.02	-0.00	+0.00	-0.04	-0.04	-0.4	-0.5		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.2	+0.00	-0.00	-0.00	+0.05	+0.02	-0.04	-0.5	+1.0	+0.1	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	+0.01	+0.01	-0.00	+0.07	+0.04	-0.04	-0.5	+1.0	+0.1	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.6	+0.01	-0.00	-0.02	+0.00	-0.04	-0.04	-0.5	+0.0	+0.1	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.5	+0.00	+0.01	+0.01	-0.01	-0.02	-0.01	+0.0	+1.6	-1.0	+1.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.7	-0.01	+0.00	+0.01	+0.01	-0.01	-0.02	+0.5	+0.0	+1.1	-0.05
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.1	+0.09	+0.10	+0.01	+0.08	+0.06	-0.02	+0.4	+0.0	+3.3	+0.3
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-1.5	-0.00	+0.01	+0.01	-0.06	-0.08	-0.02	+0.4	+0.0	+3.3	+0.3
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.7	-0.01	-0.00	+0.01	+0.01	-0.00	-0.02	+0.6	+0.0		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.7	+0.01	+0.01	+0.00	+0.03	-0.02	-0.05	+0.4	+0.0	-1.0	+0.3

(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：真夏の円高方程式

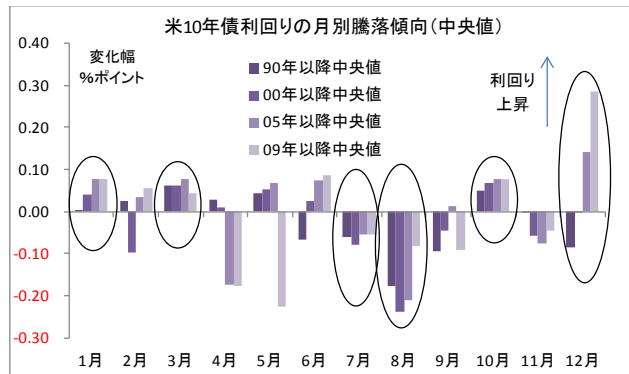
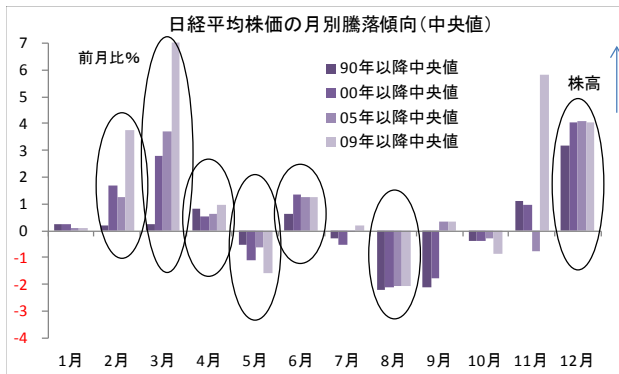
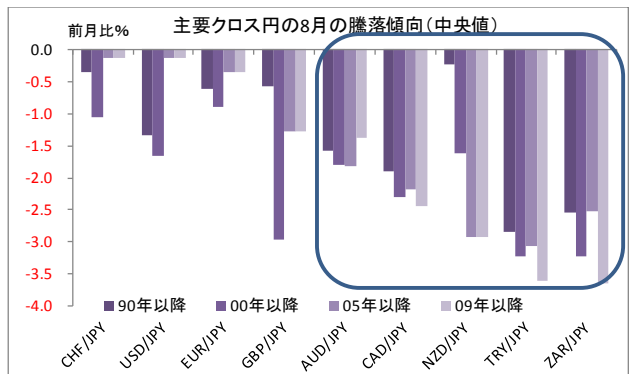
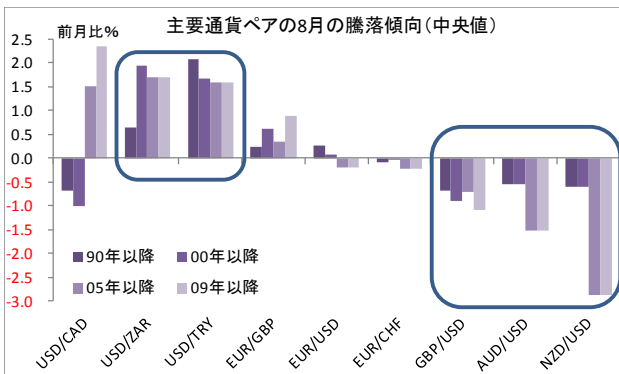
きょうの注目通貨：USD↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
米6月中古住宅販売仮契約・前月比	23:00	+6.1%	+0.5%	
同・前年比		-6.9%	-5.2%	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は週半ば以降の米国の重要イベントを控えて材料が少なく、米国を中心とする株価を睨んだ展開となろう。**米中古住宅販売仮契約**は中古住宅販売件数の先行指標でありそれなりに重要で、特に前年比でのマイナス幅縮小傾向の継続が確認されれば中古住宅販売の増加が示唆され、ドルに対して緩やかな下支え要因となる。但しドル/円は米2QGDPや米雇用統計を控えていることから、101円台後半で方向感が出にくいだろう。

材料が少ないため、来月8月の主要通貨の季節的な騰落傾向を先取りしておく、日経平均と米長期債利回りの低下傾向および、ランド、リラ、NZドル、豪ドルといった特に高金利通貨に対する円高傾向が明確だ(下図を参照)。8月は世界的に休暇シーズンとなる中で市場流動性が低下し易く、何らかのショックが起きた時にリスク回避の動きが強く出易いことを反映しているとみられる。リスク回避と円ショートポジションの巻き戻し・円高に繋がり易い材料としては、上昇し続けてきた米株価の調整(但し米株価は日経平均と違い8月に下落傾向はみられない)や地政学リスクの高まり(イスラエル、ウクライナ)、そして原油価格の上昇がある。またドル安を通じて円高を招く材料としては、ジャクソンホール会議(8月21-23日)でのYellen議長へのハト派姿勢確認や米経済指標(特に雇用統計、インフレ統計)の下振れなどがある。但し、Fedの金融政策スタンスについては、明確なものとなる場合はまちまちの影響を金融市場に与える面があり、例えばタカ派姿勢が示されると米中長期債利回り上昇はドル高要因の一方、株価押下げを通じて円高要因となり得る。逆に、ハト派姿勢が示され早期利上げ期待が後退すると、米利回り低下はドル安要因だが、株価下支えは円安要因だ。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641